

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	BAJRACHARYA DINU 【人間発達科学専攻 平成26年度生】	<p>本研究は、ネパールの初等教育における「中退リスク」のある児童の特徴とその規定要因を解明したものである。ネパールのカトマンズ盆地（カトマンズ、パタン、バクタプール）において、公立学校の児童を対象にした質問紙調査、校長と教員を対象にしたインタビュー調査、中退後にストリートチルドレンになった子どもに対する FGD（フォーカス・グループ・ディスカッション）、事例研究が実施された。その結果、中退リスクのある児童の特徴として、教室内で後ろの方に座る、友人数が少ない、教員や友人との会話が少なく、学校のグループ活動に参加しない、教員と話するとき緊張する、などを見出した。また、学校や教員が中退リスクに与える影響として、授業方法、教員の欠席、期末試験などがあげられた。さらに、学校内外の友人関係も中退リスクに関係することが明らかにされた。</p> <p>第1回審査委員会（平成29年12月13日）では、用語の定義、図表の書き方、インタビュー記録の使い方、結果の解釈、本文と注のバランス、本研究の知見のカバーする範囲、ネパールの中途退学の特徴、文教予算が限られる中での政策課題、などについて指摘や疑問が出された。</p> <p>これらの指摘を踏まえて修正作業が行われ、第2回審査委員会（平成30年2月6日）では、指摘事項に対して適切な対応が行われていることが確認された。平成30年2月15日に行われた公開審査会（出席者28名）においては、出席者から、ストリートチルドレンを取り上げた理由、教師と児童のコミュニケーションに着目する理論的根拠、中退リスクを減らすための実践的課題などに関する質問が出された。これらの質問に対して、いずれも適切な受け答えがなされた。その後に行われた最終審査委員会（平成30年2月15日）では、公開発表と質疑への応答が十分なものであったことが確認された。</p> <p>以上の結果より、本審査委員会は、本論文が博士（社会科学）、Ph.D in Educational Development にふさわしいと判断し、合格とした。</p>
論文題目	ネパールの初等教育における中退リスクの規定要因 —カトマンズ盆地を事例として—	
審査委員	(主査) 教授 浜野 隆	
	准教授 富士原 紀絵	
	教授 池田 全之	
	教授 小玉 亮子	
	准教授（上智大学グローバル教育センター） 丸山 英樹	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ <input checked="" type="checkbox"/> 可 ・ 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

